

## 厚田区古潭の「弁財船投錨地碑」と「厚田村発祥之地碑」

厚田区古潭（注1）の漁港の入り口に「弁財船投錨地碑」という碑が建っています。

「弁財船投錨地碑」は、かつて江戸時代に厚田場所の拠点として古潭に隣接する押琴（オショロコツ）に運上屋が置かれ、入江には多くの弁財船が停泊して賑わっていたことを記念して、平成5（1993）年に旧厚田村によって建立されたものです。オショロコツは、アイヌ語で「お尻の形のくぼみ」という意味といわれ、南北を岩礁に囲まれた天然の良港でした。



押琴・古潭地区の漁場経営が本格的に始まったのは、安政5（1858）年に和人が初めて古潭に定住するようになってからのことです。松浦武四郎の「丁巳東西蝦夷三川地理取調日誌」には押琴の様子が「運上屋一棟、板倉十二棟、漁具屋一棟、弁天社、稻荷社、雇土人小屋、其外詰合勤番所等、傍に出稼所五棟、外に二八（注2）小屋多」と書かれています。当時は陸上交通の手段がなく、春から秋にかけて大阪を出港し、瀬戸内海を通り日本海を北上する弁財船（北前船）が、本州と北海道を結ぶ交易船として唯一の交通手段で、幕末から明治末期にかけて、物流・文化交流など北海道沿岸の開拓に大きく貢献しました。

また「弁財船投錨地碑」の隣には、「厚田村発祥之地碑」と云う碑も建っていますが、これは昭和43（1968）年に旧厚田村によって建立されたものです。

明治当初は開拓使厚田出張所は古潭に置かれ（明治3年）、古潭村は当時の厚田郡の行政中心地でした。しかしその後、次第に中心は厚田村に移り、明治35（1902）年、押琴村、古潭村共に厚田村の大字となりました。

（石井滋朗）

注1. 古潭：明治元（1868）年から明治35（1902）年までは、厚田郡古潭村、明治35年以降は厚田村の大字となり、平成17（2005）年に厚田村が石狩市と合併して石狩市厚田区古潭となる。

注2. 二八：場所請負人に漁獲高の2割を納めることで練漁を認められた漁民。

- （1）厚田村・厚田村教育委員会（1997）「弁財船」と厚田村. 厚田村・厚田村教育委員会.
- （2）石狩市郷土研究会 石狩の碑厚田区編調査編集委員会（2012）石狩の碑厚田区編. 石狩市郷土研究会.
- （3）竹内理三（1987）角川日本地名大辞典. 角川春樹.
- （4）谷内鴻・藤村久和・鈴木藤吉・木滑二郎（1969）厚田村史. 厚田村.